

こころ育てる絵本との出会い

マクちゃん通信

2017 12 - 2018 1 vol. **47**

絵本作家インタビュー 松本春野

特集 ポップアップブック



絵本作家インタビュー

まつもと はるの 松本春野



明るいうへへ 明るいうへへ
私たちの日常の延長線にある
愛おしい世界を描く

松本春野 (まつもと はるの) プロフィール

1984年東京都生まれ。2006年多摩美術大学絵画学科油画卒業。絵本『おばあさんのしんぶん』(岩國哲人／原作 講談社)で第26回けんぶち絵本の里大賞アルパカ賞受賞。『Life(ライフ)』(くすのきしげのり／作 瑞雲舎)の台湾版『Life 幸福小舗』が第39次「中小學生優良課外讀物」(圖書書組)と2017上年度(第72回)「好書大家讀」優良少年兒童讀物(圖書書及幼兒讀物組)に選出。その他の著書に、3.11後の福島を描いた『ふくしまからきた子』『ふくしまからきた子 そつぎょう』(松本猛・松本春野／作 岩崎書店)等、多数。Eテレ『モタさんの“言葉”』の作画や、教科書の表紙絵、山田洋次監督映画『おとうと』の題字やポスターなど、テレビ、出版、広告など様々な媒体で活動している。

絵本原画展開催

平成29年12月1日(金)～平成30年1月28日(日)

原画展示絵本

『Life(ライフ)』
くすのきしげのり／作 瑞雲舎
町の外れに「Life(ライフ)」という
小さなお店があります。でもお店
といっても、だれかが働いているわけ
でも、なにかを売っているわけでも
ありません。ある冷たい風が吹いた
日、一人のおばあさんが「ライフ」に
やってきました。



『ふくしまからきた子 そつぎょう』
(松本猛・松本春野／作 岩崎書店)
原発事故をきっかけに、おかあさん
と広島へ引っ越したまや。おじい
ちゃん誕生日をお祝いするため
に久しぶりに福島に帰ってきた
まや。自転車で行きつづけていた小学
校へ行ってみると...

冬のギャラリーでは、心温まる絵とストーリーが印象的な『Life(ライフ)』と折に触れて読み返したい『ふくしまからきた子 そつぎょう』の2冊をご紹介します。

松本春野先生に インタビュー



絵本作家になられたきっかけは？

絵本作家の祖母(※1)が他界した後、両親が自宅を改装し、絵本美術館(※2)を作りました。その美術館で育ったこともあり、私にとって絵本はとても身近なものでした。絵を描くのも、物語に浸ることも大好きな子ども時代を経て、十代の頃には世間の人間模様ドラマを感じるようになり、映画が大好きになりました。映画を作ることは大掛かりだから、まずは絵本を作ってみようと、高校生の時に初めて絵本を制作し、そこからハマって今に至ります。

画材は何を使っていますか？

水彩、ガッシュ、ポスターカラー、色鉛筆、ボールペン、などです。

今回、絵本原画展を行う絵本の制作秘話や思い出を教えてください。

『Life(ライフ)』

絵本の舞台がずっとお店なので、光や季節の変化、過ぎゆく時間を逃さずに描くことで、定点観測のおもしろさや美しさを出そうと思いました。ところが、私は大雑把な性格で、いつ、どういう風に陽が差すのかなど考えないで適当に描いたり、登場人物が来た道と逆に帰っていったり…。見かねた編

集者の井上みほさんが自宅に来てくださり、辻褄を合わせるための地図を作成しました。まるで家庭教師が勉強嫌いの子どもに接するように、長時間にわたり、辛抱強くお付き合いました。

『ふくしまからきた子 そつぎょう』

前作の『ふくしまからきた子』では、うつむきがちな少女をメインに描いたけれど、『そつぎょう』では震災から時間を経ていく中で、笑顔を取り戻していった子どもたちを描きました。描きながら、自分でも本心に嬉しくなった感覚をよく覚えています。

今まで手がけられた絵本の中で、一番印象深い絵本は？

『ふくしまからきた子』と『ふくしまからきた子 そつぎょう』です。3・11後の福島の一部の状況を題材にしている作品です。議論が分かれる社会問題を孕んだ地域の話で、神経を使いました。取材先の子どもたちが、復興していく中でどんどん笑顔になっていったことや、責任を持って子どもたちの成長を見守る大人たちの力強さに、多くを学ばせてもらいました。

絵本をお作りになるときのこだわりは？

光と風、人々の表情、仕草を嘘っぽくなく描くことです。

絵本を通じてお伝えになりたいことは？

子どもたちには「世の中って特別なことが

なくても、光や風、自然、人々の表情を見ているだけでも素敵でしょ」ということ。大人たちには「生きるって本当にシビアだけど、絵本の世界に触れると、しばらくシビアさを忘れて美しい世界を再認識できますよ」ということを伝えたいです。

今後どのような絵本を描いていきますか？

今制作しているのは、食育の絵本です。娘がまだ小さいので、娘の成長を描き留めた絵本も作ってみたいです。

ご趣味についてお聞かせください。

映画鑑賞、美術館めぐり、読書、音楽鑑賞。子育て中なので、一人静かに別世界へ行けるものを欲しています！

お好きな言葉を教えてください。

「明るいうへ 明るいうへ」。金子みすゞの詩の一節です。

ファンの方へメッセージをお願いします。

「なんだかこの風景見たことあるな、そういえば、こんな顔で笑う友達がいたな」と、私たちの日常の延長線上にある世界を描いていたらと思います。

松本春野先生、ありがとうございました！

(※1) 絵本作家のいわさきちひろ

(※2) ちひろ美術館・東京

松本春野先生サイン入りの絵本を 3名様にプレゼント

応募方法 氏名、年齢、住所、電話番号をご明記のうえ、ハガキでご応募ください。
あて先 〒939-0283 射水市鳥取50 射水市大島絵本館
松本春野 サイン本プレゼント係
締め切り 平成30年2月10日 消印有効
※発表は発送をもって代えさせていただきます。



『ふくしまからきた子 そつぎょう』
(岩崎書店)





澤田 隆治
株式会社テレビランド社長
しかけ絵本コレクター・研究家

特集 / ポップアップブック

テレビ番組制作とポップアップブック

ポップアップブック、とび出す絵本に興味を持ってから五十年にもなる。

テレビの番組を制作する場所は、テレビカメラや照明などが完備されたテレビスタジオなのだが、コメディやクイズなどは観客のリアクションが欲しいので、公開放送という形式で、中継車を横付けして公開ホールで制作されることが多い。私が演出して六年以上、毎週日曜日に放送していた『スチャラカ社員』や『てなもんや三度笠』も公開放送番組だったし、今も続くお笑いブームのきっかけを作り、十一年間続いた『花王名人劇場』も観客の笑い声なしでは成立しない番組だった。三十分番組だとステージに飾り込むセットだけでストーリーを展開できるが、一時間番組になるとセットが多い方がドラマが作りやすい。短い時間でセットが変わるアイデアを考へていてポップアップにヒントがあるのではないかと気が付いた。ロンドンへ出張した時、大きな書店の児童書の棚に二十世紀初頭のポップアップブックの復刻版がいろいろあって、楽しさのあまり全部買っ

て帰国した。
やがてテレビにスペシャル番組ブームがやってきて海外ネタが大流行。いろんな国にロケに出かけてはポップアップブックを持ち帰った。ニューヨークでロバート・サブダの新作『クリスマスの12日』を

みつけた時の興奮が昨日のように思い出される。私のポップアップコレクションは、セットチェンジのアイデアの宝庫となったのだ。

*

一冊、二冊と手に入れた多種多様のポップアップブックが三百冊を超えたころに、私と神戸大学の日本史学科で共に学んだ高井進さんが、大島町(現・射水市)で新設される絵本館の館長になるから「何か手伝えよ」と言ってきた。手づくり絵本コンクールが目玉だったので「ぜひとび出す絵本の部門を作れよ。どのコンクールもやってないから」と注文をつけた。経緯は知らないが承認されて、今日まで多くの作品を集めながら続いている。

行きがかりで「しかけ絵本部門」の審査を引き受けたが、ポップアップの楽しさを理解してもらいたいと思い、私のコレクションを絵本館に寄贈した。実のところ、仕事をするための海外出張で新しいポップアップを探るのはかなり重荷になっていたの

私のおすすめ絵本

『スター・ウォーズ ポップアップ銀河ガイド』

マシュー・ラインハート／作・絵
わくはじめ／訳
大日本絵画

お馴染みの登場人物が飛び出し、ライトセーバーが光る! ダースベーダーのマスクの中も精密に再現。



『クリスマスの12日』

ロバート・サブダ／作・絵
きたむらまさお／訳
大日本絵画

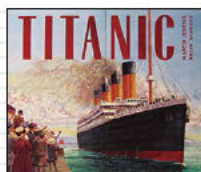
マザーグースの詩にのせて白を基調としたさまざまなしかけがとび出す美しい絵本。



『不思議の国のアリス』

ロバート・サブダ／作・絵
ルイス・キャロル／原作
わくはじめ／訳
大日本絵画

“紙の魔術師”サブダがアリスの世界をポップアップで表現。圧倒的な迫力と美しさに魅了される。



『TITANIC』※品切中

Martin Jenkins／作 Brian Sanders／絵
David Hawcock／紙工作 CANDLEWICK PRESS

開くと1.5mにもなる船体。歴史、性能、構造、事故に至る様子などタイタニックの全てが詰まった1冊。



『えんとつ町のプペル』

にしのあきひろ／作
幻冬舎

夢を信じ、夢を語り、そして行動する。「信じてくれた。たとえ一人になっても。」



『等身大ポスターがとび出す! ポップアップ人体図鑑』

リチャード・ウォーカー／作 坂井建雄(日本語監修)
ポプラ社

身長140cmの人体ポスターから頭蓋や肋骨がとび出す迫力の人体図鑑。めくりのしかけも豊富。



『あかまるちゃん』

デビッド・A・カーター／作・絵 きたむらまさお／訳
大日本絵画

不思議な形、あっと驚く精巧なしかけはまさにアート。さらに「あかいまる」を探し楽しみも。



イベントレポート①

第12回絵本館まつり 8/20

今年のスペシャルゲストは、けん玉競技世界記録保持者のしげきひろさん。世界最高峰の技を一目見たいと会場は満員御礼です。糸なしけん玉を使ったジャグリング、糸2.5mのけん玉を梯子の上から剣に刺す「とめ剣」、そして世界でもしげきさん一人しかできないという、6本のけん玉を同時に剣に刺す神業など、大技が成功するたびに会場からは拍手喝さいが沸き起こります。またショーの後の体験タイムでは「たこ焼き」という技を使ったゲームで子どもたちを楽しませてくれました。

このほか毎年恒例の絵本マーケットや緑日コーナー、お祭りカフェなどにもぎわい、来館者数は1,000人超え、大盛況の一日となりました。



創作教室レポート

第4回「モザイクアート」 9/2・3



色とりどりモザイクタイルで、どんな模様をつくらうかな？親子で顔を見合わせながら楽しそうにデザインを考える参加者の皆さん。升目に添って並べる人もいれば、斜めに置いたり、何かの形にしたり、目地を入れてステキなプレートが出来上がりました。壁に飾っても鍋敷きにしてもピッタリですね。

いろいろな色があって楽しかったです。目地を入れるのが大変でした。でも、きれいにできあがったのでうれしかったです。
(さえさん・7歳)

初めてのモザイクタイルの作業をしました。どんなデザインにしようかなんだけど、楽しくかわいのができました。家でかざりたいです。
(みゆうさん・8歳)



※創作教室は親子で「つくる」ことを楽しむ教室です。登録家族募集中！

イベントレポート②

「こころコンサートⅢ」 9/18



敬老の日、2年ぶり3回目となる「こころコンサート」が行われました。親子へ、子から孫へと歌い継いでいきたい童謡や、心あたたまる童話の朗読が披露されました。
このコンサートは毎回ソプラノ・林こと子さんが歌や童話が持つ「まごころ」を伝えたいと企画。よりその世界に浸れるようにとステージには情緒ある山下みどりさんの切り絵が映し出されます。



今回は初めてハーモニカ演奏も加わり、レトロ感漂う音色が観客を魅了しました。エンディングはこの季節にふさわしい「赤とんぼ」。司会の尾山敦子さんが歌詞を朗読した後、歌詞の美しさを噛みしめながら会場の全員で合唱。きつと皆さんの心には幼い頃に見た夕景が浮かんでいたにちがいないですね！

2・3月イベント

シアター・パフォーマンスホール

絵本プレゼント

■とき／2月25日(日)

※ご来館のご家族に1冊、絵本をプレゼント。

ゆきみだいふくさんと遊ぼう！

■とき／2月25日(日) 11時～11時30分

劇団クラルテ公演

「おおかみとつひきのこやぎ&瓜子姫とあまんじやく」

■とき／3月4日(日) 14時～15時

■料金

大人1,500円・3歳～高校生800円

春・おめでどうキャンペーン

■とき／3月17日(土)～3月29日(木)
入館料の割引や、楽しい企画がいっぱい。

カフェギャラリー

red beans OSHITAKU展

■とき／2月3日(土)～2月21日(水)

河地住美 人形展(ひいなら童子へ)

■とき／2月22日(木)～3月13日(火)

宮林智子 パステルアート展

■とき／3月14日(水)～3月29日(木)

ギャラリー

いしかわこづい展

■とき／2月3日(土)～3月29日(木)

■展示内容

「ふねくんのたび」(ポプラ社)他



寄贈絵本のご紹介

ご寄贈いただいた最新絵本の中からスタッフのおすすめの絵本をご紹介します。



『にこにこばあ』
新井洋行／作
えはんの杜



『1ぼんでもにんじん』
長野ヒデ子／構成・絵
のら書店



『ぼくね、ほんとうはね。』
川本真琴／文
SILT／サウンドアート
ウララコミュニケーションズ



『ほしじいたけ ほしばあたけ
カエントケにごようじん』
石川基子／作
講談社



『まねきねこだ!!』
高島那生／作
好学社



『まっくらやみのまっくら』
ミロコマチコ／作
小学館



『サイモンは、ねこである。』
ガリア・バーンスタイン／作 なかがわ ちひろ／訳
あすなろ書房

「ぼくたち、にてますね」ねこのサイモンが話しかけたのは、ライオン、チーター、ピューマにクロヒョウ、そしてトラ。みんなは大笑い。いっしょにしてみたら困ると、自分にしかないところを自慢しはじめます。でも、みんなにあるところも発見。見かけの違いにとらわれすぎると、本質が見えなくなるよ。のびやかな線で描かれたねこ族たちがゆったりと教えてくれているようです。

絵本館日記



9月3日(日)

「おおしま手づくり絵本コンクール」の受付開始から数日。早速小さなお子さんから高校生まで、続々と手づくり絵本が届いています。届けてくださる方々の達成感に溢れた表情に、私まで嬉しくなります。参加作品展に並ぶお子さんたちの手づくり絵本をたくさんのお客様に手にとってご覧いただきたいです。

9月17日(日)

あいにくの雨でしたが、さをり織り体験ワークショップにたくさんの方がいらつやいました。好きな色を選んで一から織り上げていくさをり織り。世界にたった一つの自分だけのオリジナルの小物が出来上がっていく様子は見ているだけでわくわく。機会があったら是非私も作ってみたいです。さをり織りの世界、なかなか奥が深そうです。

9月23日(土)

子どもや動物の絵が印象的な酒井駒子さんの絵本原画展が始まりました。息子が小さい時によく読み聞かせした「よるくま」の世界も堪能できるとあって大興奮。絵本では見ることのできない紙の質感や絵の具のかすれ具合などを細部にわたるまで楽しむことができました。素敵な絵を間近でみることで、とても幸せを感じました。

10月6日(金)

カフェギャラリーではケーキハウスミユウの松田桃子さんによる「KAWAII MOI」展が始まっています。カラフルに彩られたクッキーやマカロン。森にみたてられて作られたお菓子たち。どれをとっても心をくすぐられます。あまりの可愛さ美しさに食べるのがもったいないという人が続出なのでは...と心配になりました。

10月20日(金)

秋の遠足シーズンに入り、絵本館は小さなお子さんの賑やかな笑い声やしゃがみ声に包まれています。自分が子育てしているときには大変としか感じられなかったのに、今では赤ちゃんや子どもたちと関われることが楽しくて仕方ありません。今日も小さなお客様の笑顔に癒されています。

(記録・浦上)

利用案内

開館時間 9:30～17:30

休館日 毎週月曜日(祝日の場合翌日)
月1回資料整理日
年末年始(12月28日～1月4日)

入館料 大人510円、中学生310円、小学生100円
※団体20名以上は割引あり 団体幼児はひとり50円
※各種福祉手帳をお持ちの方は無料

交通案内 北陸自動車道小杉ICより車で10分
富山きときと空港より車で40分
あいの風とやま鉄道小杉駅より車で5分
※新幹線はJR富山駅またはJR新高岡駅で下車
富山地鉄バス・富山高岡線「赤井口」下車徒歩7分

駐車場 約60台

個人フリーパス 年間1000円
親子フリーパス 射水市在住で、小学生未満のお子様の保護者の方は無料
いみず子どもフリーデー 射水市在住の小中学生は土・日・祝日に限り無料

貸館 カフェギャラリー、シアターは貸しスペースです。個展、コンサート、発表会などにご利用ください。

講座 絵本作りや読み聞かせ、講演などの出前講座を行っています。



空に浮かぶ船のようだ。



射水市大島絵本館
OSHIMA MUSEUM OF PICTURE BOOKS

マグちゃんは絵本館のシンボルマークです

〒939-0283 富山県射水市鳥取50
TEL 0766-52-6780 http://www.ehonkan.or.jp
FAX 0766-52-6777 E-mail ehonkan@po9.canet.ne.jp